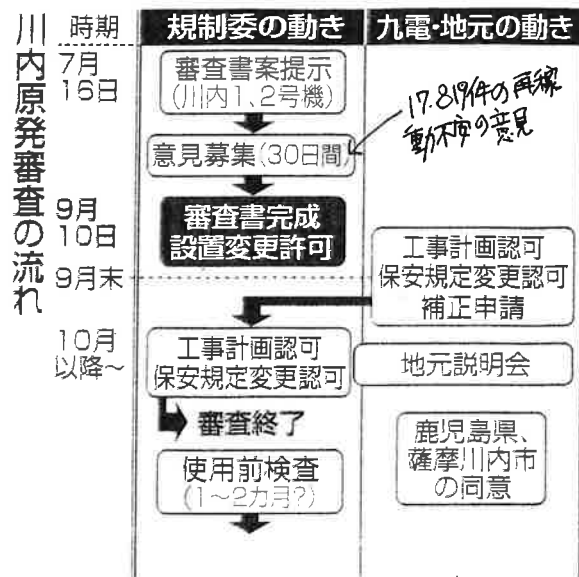


命と安全 置き去り

川内原発の審査書決定



川内原発再稼働に向けた今後の流れ



●9・23せよなら原発全国集会 (当初3~4万キボを1~2万キボに)
 代々木公園デング熱発生による
 キボ縮小して実施されます
 ●富山、バス2台を1台にして対応したいと思はす
 細部については連絡します

検証

川内原発「審査書」はここがおかしい!

基準地震動を
 小さくし、
 耐震工事を
 しないまま再稼働

JNES(原子力安全基盤機構、2014年3月に原子力規制庁に統合)が2001~2009年の報告書で算出していた地震動=「マグニチュード6.5の横ずれ断層による震源近傍で1340ガル地震動」を「震源を特定せず策定する地震動」として取り入れず、地震を小さく想定しています。基準地震動(30年前の建設時は270ガルと372ガル)を540ガルから620ガルに引き上げましたが、設備や配管などの工事は精査中だとして未だ手がけていません。不十分な基準地震動引き上げにすら対応せず、抜本的な工事抜きで再稼働しようとしています。

いつ起こるか
 分からない
 巨大噴火は
 予知できません

川内原発に影響を及ぼす巨大噴火は9万年周期で発生するとし、直近の始良カルデラは3万年前だから巨大噴火の可能性は十分低いとしています。また、モニタリングをすれば巨大噴火は予知できると言っています。しかし、多くの火山学者は9万年周期説を否定し、予知も困難だと指摘しています。政府も「噴火の具体的な発生時期や規模を予測することは困難」(2014年6月27日付け政府答弁書)だと認めています。巨大噴火によって、放射能が火山灰と一緒に日本全土にばらまかれる悲劇を起こさせないために、川内原発は再稼働せず、廃炉にすべきです。

地下水流入や
 水蒸気爆発、
 テロ対策など
 問題が山積み

①川内原発の地下水流入量は福島第一原発と同レベルの一日300トンなのに、汚染水流出問題の防止対策が不十分です。②格納容器破損モードでの水蒸気爆発について都合の悪い実験結果(TROIなど)を切り捨て、可能性は極めて低いとしています。重大事故対策のクロスチェック解析もされていません。③航空機落下やミサイル攻撃などのテロ対策を不確実性が大きいと検討していません。④設備の老朽化問題が考慮されないとか、IAEA(国際原子力機関)による多重防護の5層目の原子力防災(避難計画)を審査対象としていないなど、多くの問題が山積みです。